

## 当院でリハビリテーションを行った方へ

当院では、より良いリハビリテーションを行うことを目的として、当院でリハビリテーションを行った患者様の診療データを用いた研究を行っております。

以下の研究を行う予定ですが、ご自分の診療データを使用して欲しくない場合は、下記の研究窓口に令和5年8月18日(金)までにご連絡ください。「データを使用して欲しくない」ことをご希望されても、今後の診療等においてあなたの不利益になることは一切ございません。ご連絡をいただかなかった場合、ご了承頂いたものとさせていただきます。

### 【研究テーマ】

脊椎圧迫骨折患者の歩行能力を予測する因子

### 【研究の実施機関】

医療法人かぶとやま会 久留米リハビリテーション病院

### 【研究代表者】

保坂 公大 (理学療法士)

### 【研究の動機・意義】

わが国は、約1300万人の骨粗鬆症患者が存在しており、高齢者においては、骨粗鬆症が原因で生じる骨折が増加しています。脊椎(背骨)の骨折が最も多く、強い痛みが生じることで生活活動が制限され、歩く力も低下します。高齢者の歩く力は、退院先(自宅か施設など)や生命予後(寿命)に影響するといわれており大切です。これまでも、脊椎圧迫骨折に関する報告は多くありますが、骨折した人の将来(退院時)の歩く力を、入院時の状態から予測できるかどうかは分かっていません。

予測できれば、効果的かつ効率的なリハビリテーション治療が可能になると考えます。

### 【研究の目的】

脊椎圧迫骨折患者の将来(退院時)の歩く力を、入院時の患者情報から予測できるかどうかを検証することを目的に実施いたします。

### 【研究の対象者】

2017年10月から2022年3月31までに当院の回復期リハビリテーション病棟に入院した女性の脊椎圧迫骨折患者を対象とします。脊椎圧迫骨折患者の有病率は女性が多いため、本研究では対象者を女性に限定しています。

<次に該当する方は本研究の対象にはなりません>

- ・重度の肺炎や脳血管疾患を発症したことにより、転院したり別の病棟に移ったりした方
- ・入院中に死亡退院した方
- ・意識障害や高次脳機能障害によりリハビリテーション検査ができなかった方
- ・先天性の病気や悪性腫瘍(がん)の影響により、骨折前から歩くことができなかった方
- ・ペースメーカーや著しい関節の変形により、体組成成分測定ができなかった方

### 【研究の方法】

この研究は、医療法人かぶとやま会研究倫理委員会の承認を受け実施するものです。これまでの診療でカルテに記載された診療情報やリハビリテーションの内容などのデータを収集して分析する研究です。患者様にあらたにご負担いただくことはありません。

### 【個人情報の保護】

この研究で用いられるデータは、外部に漏洩することのないよう慎重に取り扱います。あなたの診療情報(データ)は分析する前に、氏名・住所・生年月日等の個人情報を削除し、代わりに新しい符号をつけ、ど

あなたのデータが分からないようにした上で、研究代表者の保坂公大がパスワードロック機能のついたパソコンで管理します。今回収集したデータは、研究の目的以外に使用いたしません。研究代表者の保坂公大は、日本学術振興会が提供する大学院生向け研究 e ラーニングコースを修了しています（修了年月日：2022 年 4 月 21 日）。

**【研究結果の公表】**

研究結果は、個人が特定できない形式で学会等において発表されます。収集したデータは厳密な管理の下、3 年間保存されます。研究データを統計データとしてまとめたものについては、お問い合わせがあれば開示いたしますので下記までご連絡ください。

**【利益相反】**

本研究に関して、開示すべき利益相反関係はありません。なお、あなたへの謝金はございません。

2023 年 7 月

**【お問い合わせ先】**

医療法人かぶとやま会久留米リハビリテーション病院  
リハビリテーションセンター  
理学療法士 保坂 公大  
理学療法士 今村 純平  
住所：福岡県久留米市山本町豊田 1 8 8 7  
電話：0942-43-8033  
メール：[k-rehacenter@ktarn.or.jp](mailto:k-rehacenter@ktarn.or.jp)